

博士課程教育リーディングプログラム 平成27年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	名古屋大学	申請大学長名	松尾 清一
申請類型	オールラウンド型	プログラム責任者名	前島 正義
整理番号	G02	プログラムコーディネーター名	杉山 直
プログラム名	PhDプロフェッショナル登龍門		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

博士号を持ち、企業（起業を含む）・官公庁・マスコミ・政治・司法・国際機関・NPOなど、社会のあらゆる分野においてリーダーとして実践的に活躍する職業人、すなわちPhDプロフェッショナルを養成する。まず、名古屋大学の持つ高い研究力に支えられた高度な専門性をコアとして獲得する。その上で、さまざまな分野・背景の人々と協働して創造的な成果を生み出すために必要な能力をコアに対するスポークと位置付け、ディベート力・自己表現力、コミュニケーション能力、マネジメント能力、国際性と異文化・異分野理解力、自律的提案・解決能力などのスポークを本プログラムにより獲得することを通じて、コアである優れた学識が社会の中で真に発揮され得るようにする。スポーク能力をも身に付け得る資質は、プログラム参加時の選考によって保証する。また本プログラムでは、日本の新たな成長戦略としてのものづくり再生の鍵となる東南・南・中央アジアの諸国をフロンティア・アジアと位置づけ、そこで活躍しうる人材を日本人・対象国からの留学生の双方において養成する。

本プログラムで培われるトップリーダーの資質、すなわち国際性・高いコミュニケーション能力・自律的提案能力を兼ね備えた人材を育成するプロセスは、今後、学内各部署・選考での大学院教育で生かされていく。また、従来の後継者養成に的を絞った博士課程とは異なり、本プログラムでは異分野・異文化への理解力・展開力を持つPhDプロフェッショナルを養成する。その過程で、学生が企業や官公庁、国際機関などと接触する機会が格段に増え、人材として、博士号取得者の活用可能性に相手方の理解が深まれば、結果として博士号取得者がリーダーとして活躍できる場面が拡大する。高度の専門性を持ちつつ、大学・研究機関に収まりきれないPhDプロフェッショナルを生かす国づくりを行うことこそが今後の日本の成長戦略につながることから、博士号取得者に新たなキャリアパスを提示する本プログラムは、重点化後の大学院教育の一つのモデルケースとなる。これまでの実績に基づいて、フロンティア・アジア諸国との連携を進める点でも、多くの大学に参考となる。

本学では、平成27年度に総長を中心にNU MIRAI 2020を策定、「国際標準の教育の推進により、様々な場面でリーダーシップを発揮し人類の幸福に貢献する『勇気ある知識人』の育成」を目標の一つとし、「リーディング大学院の成果を発展させる支援組織の整備」を明記している。

2. プログラムの進捗状況

本年度は、第1期生について、新たに社会人メンターを配置、現役の企業人から課題解決についての能力を学んだ。また、米国ノースカロライナ州において、3週間にわたるアンビションキャンプを実施し、米国での企業家精神をものづくりの最前線で実際に学び、能力の研鑽を図った。

第2期生は、学生へのコースワーク（英語研修・ヤングメンター制度・トップリーダーによる講義等）、英国ないしインドネシアにおける海外研修等による教育プログラムを引き続き実施しレベルアップを図った。年度の終わりには、プログラム参加状況の指標となるプロフェッショナル・ポイント、発表会、英語能力をもとに、プログラム参加継続可否のための評価を実施した。

加えて、10月から第3期生となる履修学生を選抜・決定し、モンゴル国ウランバートル市において初年次海外研修を行い、本プログラムに参画する意義を明確に持たせると共に、モンゴルの発展戦略を考えることからグローバルビジネスについて学ぶ機会を提供し、今後のプログラム履修において必要とされる基礎力の醸成を図った。また、10月以降は、コースワーク、さらに10日ほどの海外春研修（ラオスないしモンゴル）を実施、そこでの自主研修などを通じて、能力の積み上げを行った。

また、英国vitaeとの交流事業も充実させ、トランスファーラブル・スキルズ・トレーニングの実施や、東海東京フィナンシャル・ホールディングスとの連携によるグローバルビジネス講座、国際情勢講座等の開催を通して、様々な観点から自主的に考察する経験を積ませ、俯瞰的な視座を獲得するための取り組みを実施した。

その他、事業目的を達成するため、以下の通り実施した。

- (1) 各種コースワーク、海外研修等の実施に必要な機材・消耗品等を購入し、体制を整備した。
- (2) 運営に必要な学識経験を持った特任教員及び非常勤職員等を雇用した。海外の大学で博士号を取得した教員を採用し、アカデミックライティングについての講義を開講させプログラム内容の強化を図った。
- (3) 学生に異分野理解力を涵養するとともに相談相手となるヤングメンターを引き続き配置するなど、学生支援を実施した。また学生との個別相談を実施し、研究内容からメンタルケアについても含め支援の充実に努めた。
- (4) フロンティア・アジア等の主なフィールドとなり得る国々及び国内関係諸機関等について、社会人メンターや研修内容に係る打ち合わせのため協力者を来校させ、また教職職員を派遣し打合せを実施した。
- (5) 過去の研修・コースワークを再検討し、研修時のクラス分けや、海外研修時の渡航先、テーマなどについて改善を行い研修等を実施した。
- (6) 意欲ある大学院生（留学生を含む）を正規履修生・準履修生として選抜し、研修・コースワークを実施した。また、コア能力向上のための支援も併せて実施した。
- (7) 不断の改善を目指し、国際的な業績を持つ研究者等からなる国際アドバイザリーボードを招聘し、大所高所からの知見をプログラム実施に助言をお願いした。また、シンポジウムと運営委員会を同時開催し、学生からの活動報告も含めプログラムの周知に努めた。
- (8) 広報に必要なパンフレット、ニューズレターの作成等を行うとともにウェブサイトを活用し広報活動を行った。
- (9) 6プログラム共通の事案の一部については、設置しているリーディング大学院推進機構が主導し、シンポジウムや国内学生募集等を協働して行った。